

モデルプログラム D-1 文化適応ー異文化接触と適応ー

ねらい	文化間移動による異文化接触が、子どもたちの心的状態にどのような影響を及ぼすのか、また、新しい文化をどのように取り込みながら受け入れ側の社会に適応していくのかを、成人と子どもの違いに着目して理解し、子どもたちの適応過程で生じる問題を想像的に理解し、対応の仕方を考えられるようになる。
対象	<input checked="" type="checkbox"/> 教師を目指す学生（教員養成課程他） <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 現職一般教員 <input checked="" type="checkbox"/> 管理職 <input checked="" type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員／母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒等教育の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input checked="" type="checkbox"/> 1年目 <input type="checkbox"/> 2-4年 <input type="checkbox"/> 5-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 捉える力（子どもの実態把握） <input type="checkbox"/> 捉える力（社会的背景の理解） <input type="checkbox"/> 育む力（日本語・教科の力の育成） <input checked="" type="checkbox"/> 育む力（異文化間能力の涵養） <input type="checkbox"/> つなぐ力（学校作り） <input type="checkbox"/> つなぐ力（地域作り） <input checked="" type="checkbox"/> 変える／変わる力（多文化共生社会の実現） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（教師としての成長）
主な内容	D 文化適応 L 保護者・地域とのネットワーク
活動形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義型 <input type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	90分
流れ（・項目）	活動（◇活動の工夫）
1. 異文化適応のプロセスを解する。（20分） ・心的文化変容（同化／分離／統合／境界化）（D） ・異文化適応のプロセス（D）	1. 異文化接触とその後の文化適応について自身の体験を元に考える。 1) 自身が文化間移動をした時の体験を思いしながら、次の概念について講義を聴いて理解する。 ・心的文化変容「同化／排除／統合／境界化」 ・ハネムーン・ピリオド ・カルチャーショック 2) 異文化適応がUカーブ、Wカーブなどのプロセスを経ることを知る。
2. 学校文化の多様性について知る。（30分） ・外国人児童生徒等の文化（D）	2. 資料を元に学校文化の多様性を知る 1) 映像資料などで外国の学校の様子を知る。 2) 文化によって「隠れたカリキュラム」や「よい子」像に違いがあることを知る。
3. 子どもの異文化適応の特徴を知る。（30分） ・情意面、行動面、認知面の違い（D）	3. 子どもと大人の異文化適応の特徴について、両者の比較を通して理解する。 1) 大人と子どもを比較し、どちらが異文化への適応が容易か、それはなぜかを考える。 <視点> ・自由意志の有無 ・ネットワーク ・家族との関係 他 2) 発達段階と文化適応の3側面（情動、認知、行動）の関係を知る。 低年齢の子ども：3側面で同時に新しい文化を取り入れていく。 高校生以上：知識として理解し、行動できても、気持ちの上で受け入れられないという場合もある。
4. 教師としての関わり方を考える。（10分）	4. 教員としてどのような教育的介入が可能か話し合う。 <話し合いのポイント> 対象児童生徒について：来日後の期間 年齢 文化 家族 受け入れ側の学校・児童生徒：隠れたカリキュラム 情報提供の方法
備考	・30分程度で扱うならば、3、4を中心に講義する。 ・日本語指導に関する授業や研修で、文化適応に関する情報を提供する程度であれば、子どもの文化適応に関わる内容から一部を選択して取り扱う。 ・活動型として実施するのであれば、話し合いに十分な時間を割く。

備考	
----	--